

1 1 月 2 9 日開催の全員協議会における要旨

(1) 発言者数など

- ・ 15名が発言（出席議員数 27名 欠席議員数 1名）
- ・ 現状維持の意見 8名、定数減の意見 4名、定数増の意見 1名、その他の意見 2名

(2) 現状維持の意見（要旨） 発言者数 8名

- ・ 他市と比較しても多くも少なくもない。明確な理由がない限りは定数を増やす又は減らすということにはならないのではないかと。仮に人口が増えて定数を増やすとなった場合に、それであれば報酬を減らすという議論になりかねないので、報酬と併せて議論すべきではない。
- ・ 地域や市民の声を集約するためには、この定数がぎりぎりとする。定数を減らすに当たっては、基準がないわけであって現状に照らし合わせて、市民の声をどう反映できるかといったところが重要ではないか。このような議論を毎回やっても意味がないのでどこかでルールを決めて線引きが必要。
- ・ 組織票や団体票を持っている方に有利な選挙になる可能性がある。定数減により、弱い者は発言できなくなる。まちづくりには多様な属性を持つ人間の様々な意見が必要だと思うので、安易な定数の削減ではなく、いかにして市民意見を取り入れてより良い市政運営に向けた議会がなされるかという観点で定数は削減するべきではない。権力集中というデメリットも生じる可能性がある。
- ・ 広く市民の声を代弁していくという意味では、今の定数 28名は確保しなくてはならない。
- ・ 議会のない場面でも市民のところに行って、色々と市政の報告をしたり地域の困りごとを聞いたり、市とのつなぎ役としての役割を与えられているので、これ以上減らすとなると、発信力が弱まる。若い幅広い世代の市政への参画、チャレンジというところに門戸を広げていくということを考えると、これ以上削減することはチャレンジの機会も狭めるということになりかねない。
- ・ 子育て世代や若い世代、多様な方が市政に関心を持って進出できることが重要と考えている。

(3) 定数減の意見 (要旨) 発言者数 4 名

- ・定数は人口の増減にある程度比例しても仕方ない。以前、新緑が10万人超に対して定数20人を基本に1万人ごとに定数1増というルールを提案していた。ある程度の基準をつくらなければ選挙の度に定数の議論が生じるので、苫小牧市独自で考えるべきで他市はあくまで参考で基準ではない。定数は偶数とすべき。
- ・定数を減らすとともに委員会に複数所属できるようにするなど議会改革も一緒にやらなければならない。自動的に計算式で定数が決まるようなルールについて議論すべき。
- ・今は、自治基本条例やまちかどミーティング、あるいは行政としても市民の声をしっかりと受け止める、そういった風土が醸成されているので、議会の在り方、議員の在り方も多様な市民の声を市政に届けるということではなく、そこから一歩進んだ形に変化させる必要がある。魅力ある議会をつくっていくためにも、定数を減らして専門性を高めていく、そういった議会を目指していくべき。
- ・定数についても市民の意見を聞くべき。議員間競争を生むためにも定数減には賛成。

(4) 定数増の意見 (要旨) 発言者数 1 名

- ・2名増の30名とすべき。定数の基準をつくるのは難しいのではないか。

(5) その他の意見 (要旨) 発言者数 2 名

- ・一定の基準を設けるべき。全議員の理解を得られるかどうかは、基準のつくり方、在り方次第。定数についての明言は避けるが、その基準次第による。